

2 視覚に障害のある人

(1) 避難所で困ること

- 視覚による情報の把握が難しい
 - ⇒ 視覚での情報が伝わらないため、配給などの重要情報が行き届かない場合がある。
- 自分がいる場所の把握に困ることがあり、一人での移動が難しい。
 - ⇒ 避難所でのメンタルマップ(心的地図：安全な歩行のために頭の中で地図や道順を構成したもの)の作成が難しく、多くの荷物が乱雑に置かれた避難所では移動が難しい。
- 盲導犬の居場所の確保が難しい(周囲の理解不足)



(2) 必要なもの・体制

- ・【携帯ラジオ】
- ・【^{はくじょう}白杖】
- ・【補助犬(盲導犬)コーナー】 ⇒ 福祉避難コーナーを活用

(3) 災害直後の対応方法・考え方

- 環境の整備(ハード)
 - ・ 屋外トイレは、順路を把握しやすいようロープなどを張り動線を確保
 - ・ 情報伝達は放送装置などを活用し、わかりやすい情報を繰り返し流す。
- 対応方法(ソフト)
 - ・ 視覚に障害のある人に配給など重要な情報が伝わっているか個別に確認
 - ・ 居住スペースは壁際や角など比較的自身の位置がわかりやすい場所に。
 - ・ 補装具や日常生活用具の破損・紛失に応じ、修理・支給を行う。
 - ・ 手伝うときは一声かけて行う。誘導する場合は手をひっぱるのではなく、少し前に立ち、肩などを持ってもらい案内する。方向は時計の針の方向で示し、段差がある場合はその都度きちんと伝える。

(4) 必要な専門員(避難生活が長期化する場合)

- ・ ヘルパー
- ・ 視覚障害団体などの関係者

☆ 少し気遣って・・・

- 居住スペースからトイレなどに移動する際のルートをあらかじめ決めておき、誘導時に伝えるべき情報（段差など）を想定しておく。
- 動く人が少ない夜間に行動されることがあるため注意する。
- 居住スペースが広い場合、自身の位置が把握しにくいいため注意する。